

令和7年度 次世代創出PBL推進事業
実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	40
学校名	富山県立富山視覚総合支援学校

学校の現状と課題	本校専攻科保健理療科生徒は、本校を卒業後、あん摩・マッサージ・指圧師として、理療の現場ですぐに活躍できるように、高い臨床能力を身に付ける必要がある。	
テーマ(特色)	就労を目指す施術者として、一年次からのコミュニケーション力の向上と国家資格取得に必要な学力向上を目標とする取組	
設定した「テーマ」の達成状況	施術者として患者とのコミュニケーションの目的を理解し、聞く力・伝える力の必要性を意識するようになり、知識・技術両面の向上を目指す姿が明確になった。	
実施内容 (具体的に記入する)	情報の授業において、コミュニケーションの基本となる聞き方(アクティブリスニング)・話し方の基礎、臨床における問診・会話の初歩を年間計画に基づき2学期に学習した。 外部の公認心理師による「私が患者さんとの会話で気を付けていること」という演題で対話型の講演会を実施した。生徒は「苦痛を抱えながらも治療に来る患者にねぎらいの気持ちをもって接し、話を聞く意識」と、「患者を触察し情報を得て、術者の手を用いて治療するあん摩マッサージ指圧施術の可能性」について学んだ。 2回の企業での臨床体験では、教員が行う実際の施術を間近で見学した。施術前の問診の様子や施術中の対話を通して症状を具体化・言語化し、それに対応した工夫を加えながら施術を進めることを学んだ。	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	1学年の段階で具体的に将来の自分の姿や施術者像を思い描くことができる機会となった。 1学年で学習している実習が施術の基本であり、自分の知識や見識が施術者としての患者とのコミュニケーションの支えとなることを深く理解することができた。 2学年から段階的に教員の指導助言の下、施術を行う授業(臨床実習)が始まる。さらなる経験の拡大とともに、技術・知識の向上と学習意欲の喚起が期待される。今年度の取組を次年度以降にも生かせるよう、学校内外での施術の機会を確保し、学び続ける力を育てたい。	
対象者(学年・人数など)	高等部専攻科保健理療科 1学年(2名)	
実施実績	4月	
	5月	
	6月	
	7月	
	8月	
	9月	
	10月	
	11月	
	12月	臨床心理士による講演
	1月	県内企業での施術体験①
2月	県内企業での施術体験②	
3月		